

☆藤沢市地域防災活動推進大会が開催されました

平成29年1月22日(日)藤沢市民会館小ホールにおいて、平成28年度地域防災活動推進大会が開催され、258名が参加しました。



【推進大会の目的】

市内14地区の自主防災組織会長で構成される「藤沢市防災組織連絡協議会」と藤沢市の共催により平成21年度から開催しており、地域における防災活動の紹介や講師を招いた防災講話を通して、市内における防災活動の普及や市民の防災意識の向上を促進する。

第1部 地域防災活動事例発表

- ・「六会地区防災リーダー連絡会」及び「藤沢西部地区町内会自治会連合会」から、それぞれの地域の特徴・取り組み・課題等の報告がありました。
- ・(一社)藤沢市建設業協会「防災活動と社会貢献活動について」～この藤沢を地震・大雨・暴風・積雪から守る～をミッション(使命)とし、日頃行っている活動について報告がありました。



第2部 防災講演会

岩手県釜石市立釜石小学校 元校長 渡邊真龍氏
(東日本大震災時は釜石中学校校長)

故郷に住まう作法を身につける釜石の『いのちの教育』 ～防災教育や地域連携における学校の役割～

(以下講演内容の一部) 東日本大震災時、釜石市の小中学生生存率99.8%は「釜石の奇跡」と報じられたが、生き切った児童生徒は「実績(学習の成果)です」と話す。子供たちに

「防災文化(避難は当たり前)」を育てるという視点は、発災時の大人の心理をも好転させる。さらにその子たちが大人になり親となって次世代に防災文化は伝承される。



☆「東京臨海広域防災公園 そなエリア東京」に行ってきました！

平成29年1月25日(水)防災リーダー連絡会研修部会主催の視察研修が参加者21名で実施されました。今年度は江東区有明の「東京臨海広域防災公園 そなエリア東京」に行きました。(裏面へつづく)

公園は、首都圏で大規模な地震災害等が発生したとき、国や地方公共団体等の緊急災害現地対策本部が設置され、全体が広域的な指令機能を受け持つ場所となります。

園内の「そなエリア東京」は防災体験学習施設です。首都直下地震の発災から避難までの流れを体験できる「東京直下72hTOUR」では、音響・照明・映像により再現された被災地の街を、タブレット端末から出題されるクイズに答えながら避難場所まで移動することで、生き抜く知恵が学べます。

ほかにも大型プロジェクターによる映像ホール、防災グッズや各種防災ゲームが展示されている防災学習ゾーンを見学することができます。



☆もう一度確認しましょう！

<突然大きな揺れに襲われたとき>…まず自分の身を安全に守れるよう心掛けること、戸を開けて出入口を確保すること。

→棚や棚にのせてあるものから離れて、揺れが収まるのを待つ。あわてて戸外へ飛び出さない。

<揺れが収まったら>…家具や飛び散ったガラスの破片等でケガをする恐れがあるので、落ち着いて行動すること。

→テレビやラジオ、役所等からの情報に注意し正しい状況の把握に努める。その時役所から避難の指示や勧告等が出た場合はそれに従う。

→もし指示がない場合でも、身の周辺に危険が迫っていると判断した場合はためらうことなく避難をする。(消防署や警察は救急・救助活動に追われていることが予想されるため問い合わせ等は控える。)

<家を出るとき>…電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。

→外に出る時もしっかりと周囲を確認すること。ガラスや看板などが落ちてくる可能性もあります。

→我が家の安全確認後、近所にも声をかけて安否を確認。

<避難方法>…原則として徒歩で避難しましょう。車を使うと渋滞を引き起こし、消防や救急活動などに支障をきたしてしまう為。普段歩いている道も混乱して、歩きにくくなっている恐れがあるので、携帯品は背負える範囲のものに留め、服装は動きやすいものにする。(身の回りの避難所や広域避難場所を日頃からチェックしておくことも大切です。)



☆防災リーダー連絡会の活動の様子や、過去の防災リーダーニュースをご覧になりたい方は、《六会地区ポータルサイト》をご覧ください。

<http://fujisawa-mutsuai.ecom-plat.jp/>もしくは「六会地区ポータルサイト」で検索

☆編集担当自治(町内)会：亀井野虹の原・石川丸石・西俣野中・西俣野下